

第60回日本農村生活研究大会 プログラム

期 日 : 平成**24**年**11**月**23**日 (金・祝) **12:30~17:40**
24日 (土) **9:00~17:00**

会 場 : 共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス

(東京都千代田区一ツ橋2-2-1)

大会テーマ「農村から発信する持続可能な生活力」

★基調講演 23日 (金・祝) 13:20~16:20

基調講演1 「“農的暮らし”からの発信と社会構成体論」

神戸学院大学客員教授 本野 一郎 氏

基調講演2 『生活研究方法論序説』の視座と今後の農村生活研究」

東北大学名誉教授・昭和女子大学名誉教授 木村 修一 氏

基調講演3 「暮らしの知の共有認知が地域を導く」

(独)農研機構 農村工学研究所 教授 山本 徳司 氏

★ラウンドテーブル 24日 (土) 13:40~16:40

分科会形式で2つのテーマについて話題提供と自由な意見交換を行います

●ラウンドテーブル1 「被災農村における人々の想いと暮らし」

●ラウンドテーブル2 「ポスト農村女性起業を考える」

主 催 : 日 本 農 村 生 活 学 会

【第1日（11月23日・金）】

一般受付（12：30～）

（1）開会式（13：00～13：15）

趣旨説明 日本農村生活学会会長 安倍 澄子

（2）基調報告（13：20～16：20）

テーマ「農村から発信する持続可能な生活力」

生活研究は、衣食住を媒介とした人・モノ・空間・環境・社会との関係性を研究する学問である。農村生活学会は、農村の「暮らし」を研究している。だからこそ人々の本来の生活力や社会のあり方が発見できる。

60周年を迎えた今回の研究大会では、60年間の農村生活研究の蓄積を土台として、農村生活を新たに見つめなおし、農村から発信する持続可能な生活力について考える。

その中で、現在直面している日本社会の大きな課題の一つである大災害によって浮き彫りにされた課題と展望を取り上げる。東日本大震災から1年7ヶ月が経過したが、復興への取り組みは未だ不十分である。また、都市の脆弱性も指摘されている。阪神・淡路大震災、新潟県中越地震などの過去の震災の経験を振り返り、震災時に人々を支えた「生活力」の意義を検証する。被災地において、様々な立場から、暮らしの再建に取り組みされた関係者の方々の報告をもとに、震災・災害の経験から学び、「生活力」について議論する。

基調講演

基調講演1 「“農的暮らし”からの発信と社会構成体論」

神戸学院大学客員教授 本野 一郎 氏

基調講演2 『生活研究方法論序説』の視座と今後の農村生活研究」

東北大学名誉教授・昭和女子大学名誉教授 木村 修一 氏

基調講演3 「暮らしの知の共有認知が地域を導く」

(独)農研機構 農村工学研究所 教授 山本 徳司 氏

休憩（15：40～15：50）

討論（15：50～16：20）

座長 安倍 澄子 会長

休憩（16：20～16：30）

（3）総会・学会賞授与式（16：30～17：40）

（4）情報交流会（18：00～20：00）

【第2日（11月24日・土）】

（1）一般報告（9：00～12：30）（3会場に分かれて実施します）

A会場（9：00～12：30）

- ① 北海道に適する調理用トマトの栽培と普及システムに関する考察
北海道大学国際広報メディア・観光学院 博士課程後期 加藤 知愛
- ② トウガラシ流通とトウガラシを使ったまちおこし — 栃木県大田原市を事例に—
東京大学大学院農学生命科学研究科 藤掛 知英美
- ③ 農業の6次産業化と普及活動
埼玉県加須農林振興センター農業支援部 大川 恵美子
- ④ 地域づくりをめざす農村女性起業活動に対する評価と課題
明治大学研究・知財戦略機構 澤野 久美
- ⑤ フランスの農村における直売活動等の実態と課題
明治大学大学院農学研究科 ○小柳 洋子
明治大学研究・知財戦略機構 澤野 久美
- ⑥ 農産物情報に対する消費者ニーズに関する考察
— 直売所における立ち聞き調査データを基に—
札幌市立大学大学院デザイン研究科 ○吉田 恵介
北海道大学国際広報メディア・観光学院 博士過程後期 加藤 知愛
(株)アレフ 五十嵐 くるみ
- ⑦ 有機朝市における運営の課題と発展の可能性
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所 唐崎 卓也
- ⑧ 小規模直売所が地域社会に果たす役割及び存立の要件に関する研究
法政大学 吉野 馨子
群馬県庁 清水 千鶴

B会場（9：00～12：30）

- ① 東日本大震災発生直後における避難所運営の課題抽出
— 大槌稲荷神社における10日間の記録をもとにしたテキストマイニング—
(独) 農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター ○飯坂 正弘
岩手大学 麥倉 哲
岩手大学 梶原 昌五
岩手大学大学院 飯塚 薫
- ② 農村女性起業活動による原発災害復興支援の取り組みと課題
— 「かーちゃんのカプロジェクト」を事例に—
福島大学 岩崎 由美子

- ③ 普及員経験を活用した東日本大震災後の女性起業復興支援 ―岩手県を事例として―
 玉川大学文学部 ○太田 美帆
 昭和女子大学人間社会学部 粕谷 美砂子
- ④ ガンビア東部における落花生栽培と女性の役割
 NTC インターナショナル株式会社・千葉大学大学院園芸学研究科 博士後期課程 ○高木 茂
 千葉大学大学院 小林 弘明
 千葉大学大学院 丸山 敦史
 山崎農業研究所 小泉 浩郎
- ⑤ 豪雪過疎地域に暮らす一人暮らし男性高齢者の生活課題 ―健康維持に影響する視点から―
 桐生大学医療保健学部 ○奥野 みどり
 桐生大学医療保健学部 藤川 君江
 佐賀大学農学部 橋本 芳
- ⑥ 離島で生活する一人暮らし男性高齢者の生活継続性に関する研究
 一居住地域の生活への思いについての調査から―
 桐生大学 ○藤川 君江
 佐賀大学 橋本 芳
- ⑦ 農業と福祉の連携に関する一考察
 (株) ファーム・アライアンス・マネジメント ○数納 朗
 社会福祉法人 森の会 小泉 隆文
- ⑧ 農と福祉の連携から3トンの絆へ
 交流サポーター 徳島県連絡会 ○小林 徳子
 安田 孝子

C会場(9:00~12:30)

- ① 島根・山村における小規模農林業の実態把握と自給的役割の再評価に向けて(1)
 -フィールドワークをふまえた質問紙調査による「地域自給力」の把握―
 島根県中山間地域研究センターやさか郷づくり事務所 ○相川 陽一
 日本学術振興会(島根大学生物資源科学部) 福島 万紀
 島根県中山間地域研究センターやさか郷づくり事務所 佐藤 響太
- ② 島根・山村における小規模農林業の実態把握と自給的役割の再評価に向けて(2)
 -小規模農林業の継続可能性はいかにして決定されるか―
 日本学術振興会(島根大学生物資源科学部) ○福島 万紀
 島根県中山間地域研究センターやさか郷づくり事務所 相川 陽一
 島根県中山間地域研究センターやさか郷づくり事務所 佐藤 響太
- ③ 中山間地域における農産資源の発掘・活用に関する複合的な営農支援のあり方
 一島根県浜田市弥栄自治区を事例として―
 島根県中山間地域研究センターやさか郷づくり事務所 ○佐藤 響太
 島根県中山間地域研究センターやさか郷づくり事務所 藤山 浩
 鳥獣対策グループ 澤田 誠吾
 資源環境グループ 稲田 修

- ④ 子育て世帯の中山間地域への定住に必要な年間支出額についての考察
～島根県U市、M市、O町、I町、広島県K町の世帯を対象として～
島根県中山間地域研究センター 有田 昭一郎
- ⑤ 都市開発の農業への影響と農業者の選択 ―東京都稲城市の土地区画整理事業を事例に―
明治大学大学院農学研究科 博士後期課程 菊池 和美
- ⑥ 地域活動への参加を促進する各種グループの「橋渡し機能」
―農地水環境保全向上対策にみる各種グループの参加状況の観察から―
(独) 農研機構 農村工学研究所 ○重岡 徹
(独) 農研機構 農村工学研究所 山本 徳司
- ⑦ 教育民泊受入農林漁家の各集落総世帯数に対する比率
成美大学 中尾 誠二
- ⑧ 中国人研修生の送り出しの実態と課題に関する一考察 ―中国山東省青島市の事例より―
愛知県立大学 西野 真由

(2) 昼食 (12:30~13:30)

(3) ラウンドテーブル (13:30~16:50)

● ラウンドテーブル1 テーマ「被災農村における人々の想いと暮らし」

東日本大震災による甚大な被害の復旧復興の途において、都市部でのライフラインなどの復旧は進捗している一方で、農山漁村での復旧は遅々として進んでいない。また、震災後1年半を経て、物的な問題のみならず、心的な課題は一層深刻さを増しているとさえ言える。とくに過疎地域における農林水産業を生業としていた被災農家では「なりわい＝生きる業」を行えないことから、働く喜びばかりか生きる喜びをも失いかけているように見受けられる。

これら被災農家とのコミュニケーションや心のケアは普段、都市部に住んでいる我々、研究者やボランティアにとって到底容易なことではない。当該農村生活における現状を把握し、課題点を抽出してその解決策を検討するためにも、現場で尽力する多様な分野の研究者から実情を報告してもらい、農村生活研究ならではのアプローチを図る。

話題提供：

- ・関 礼子 氏 (立教大学社会学部)
- ・葉山 繁 氏 (国立歴史民俗博物館)
- ・飯塚 里恵子 氏 (千葉農村地域文化研究所)

座長：後藤 徹寛 氏 (佐賀大学 産学・地域連携機構)

●ラウンドテーブル2 テーマ「ポスト＜農村女性起業＞を考える」

内容

1992年の「農山漁村の女性に関する中長期ビジョン」（以下、中長期ビジョン）から20年が経過した。そこで目標とされた農村女性像を体現している女性たちも数多い。中長期ビジョンで「農村女性起業」という言葉が初めて使われたが、いまや、農村女性起業は全国各地で活発化し、地域の社会的課題を解決する主体として活躍するようになっている。つまり、近年、注目されている「社会的企業」として、農村女性起業が発展していくと考えられるのである。

そこで、地域の社会的課題に対応するような起業活動に取り組む農村女性やその支援者からその活動内容などについてご報告いただき、フロアの皆さんとともに、今後の農村女性起業を考える素材として、社会的企業としての農村女性起業を検討してみたい。

話題提供：

- ・秋葉 節子 氏（千葉県茂原市 農村女性起業家）
- ・森川（河野）あけね 氏（宮城県農業・園芸総合研究所）
- ・藤原 りつ 氏（元岩手県専門技術員）

座長：澤野 久美 氏（明治大学研究・知財戦略機構）

●ラウンドテーブルまとめ（16：00～16：50）

座長：後藤 徹寛 氏（佐賀大学 産学・地域連携機構）

座長：澤野 久美 氏（明治大学 研究・知財戦略機構）

総合司会：粕谷 美砂子 氏（昭和女子大学 人間社会学部）

(6) 閉会式（16：50～17：00）

挨拶 黒澤美智子 研究大会委員長



○大会参加費等について

・参加費（要旨代を含む）	日本農村生活学会会員	4,000円
	非会員	6,000円
	学生会員（含非会員）	2,000円
・要旨のみ		2,000円
・情報交流会		4,000円
・大会記念誌（過去の大会の歩み）	会員・非会員（希望者）	1,000円

○ご宿泊について

各自で直接ご予約頂くようお願い致します。

○会場へのアクセス （地図は次頁参照）

共立女子大学 本館（東京都千代田区一ツ橋2-2-1）

◆アクセスマップについて

最寄り駅は「神保町」、「九段下」、「竹橋」です。

「水道橋」、「御茶ノ水」の各駅からも徒歩圏内です。

<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/access/kanda/access.html>

◆キャンパスマップについて

東京都千代田区一ツ橋2-2-1（本館）

・東京メトロ東西線「竹橋」駅下車1b出口から徒歩3分

・東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線「神保町」駅下車

A8出口から徒歩1分

・東京メトロ東西線・半蔵門線・都営地下鉄新宿線「九段下」駅下車6番出口から徒歩5分

<http://www.kyoritsu-wu.ac.jp/access/kanda/campus.html>

お問い合わせ先：〒154-8533 東京都世田谷区太子堂 1-7-57

昭和女子大学 人間社会学部 現代教養学科

日本農村生活研究大会委員会（担当 粕谷美砂子）

TEL/FAX: 03-3411-4292（不在の場合は、03-3411-5042 現代教養学科教授室）

E-mail: mkasuya@swu.ac.jp

参加申し込み先：大会委員会事務局（参加費は当日徴収いたします。）

FAX: 03-6369-4808

E-mail: xx052014@affrc.go.jp

（申込書ファイルは学会 HP からダウンロードできます）